

薄字
紫台

山本
版

曙

五編上



6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6

薄紫

字沽曙

江戸より

山本平吉

板

種貞作

第五編

豊国画

上冊

おきこのあひもはゆふのむい
あつておしきこころをせむる
ふはばいそをむるにそびるを
さふれくおやまはしむるを
こびくともさひあひを

竹川巻

往時做翁柳亭々或冊子の飛六編の序

日石山形の硯石の二連ねて鯉と

牛と木瓜の裡小彫てある中累若龍

門の逆のり運ゆあら獅子飛の浪小簪方宇は十帖

へ渡りて全部ふるさと書れり文の遠きあふ引きて予此

栄又堂の進め依彼盛衰記の高経多れと余

人の魁宇治川へ作意の馬の乗入るから奴とてさん

才智もむくぬくけりる巻中にて浮つ沈つ漂ひ流れ筆の

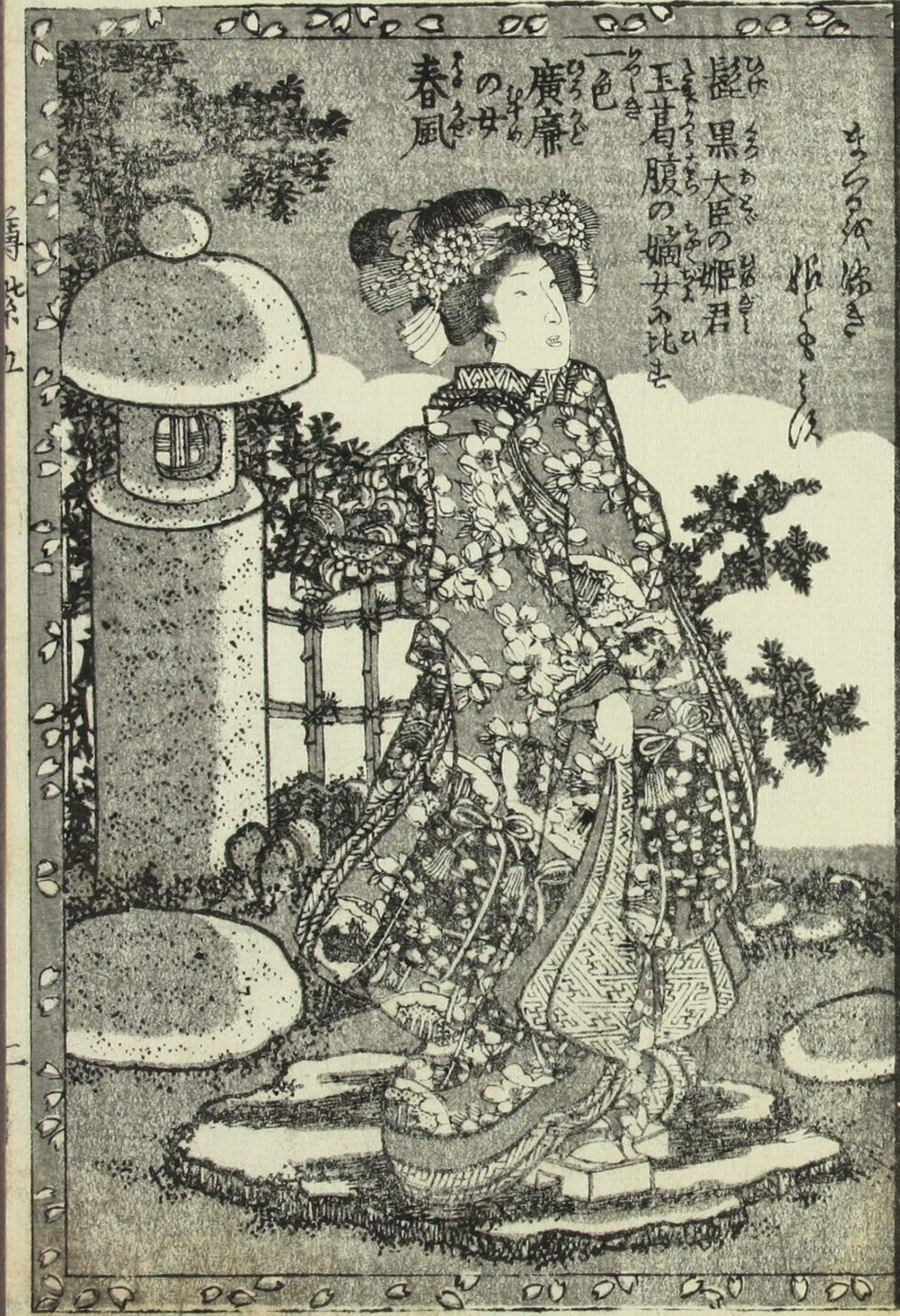
序文石山形の硯の因のあまふあふ

景季が衆摺墨るゝの助やわきと殆思ふ先師の

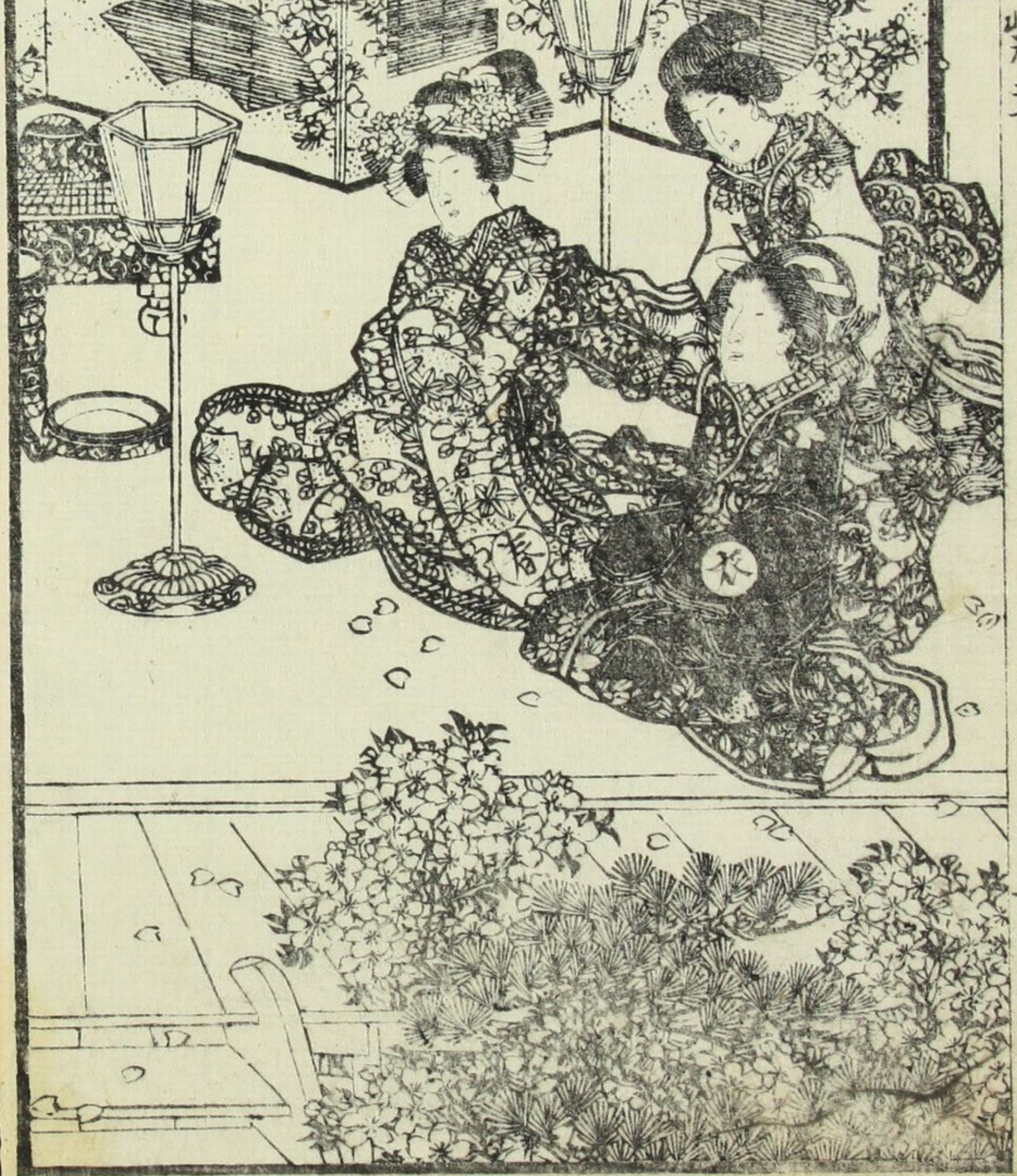
嘉永壬子獻歳柳下亭種貞記

嘉永壬子獻歳柳下亭種貞記

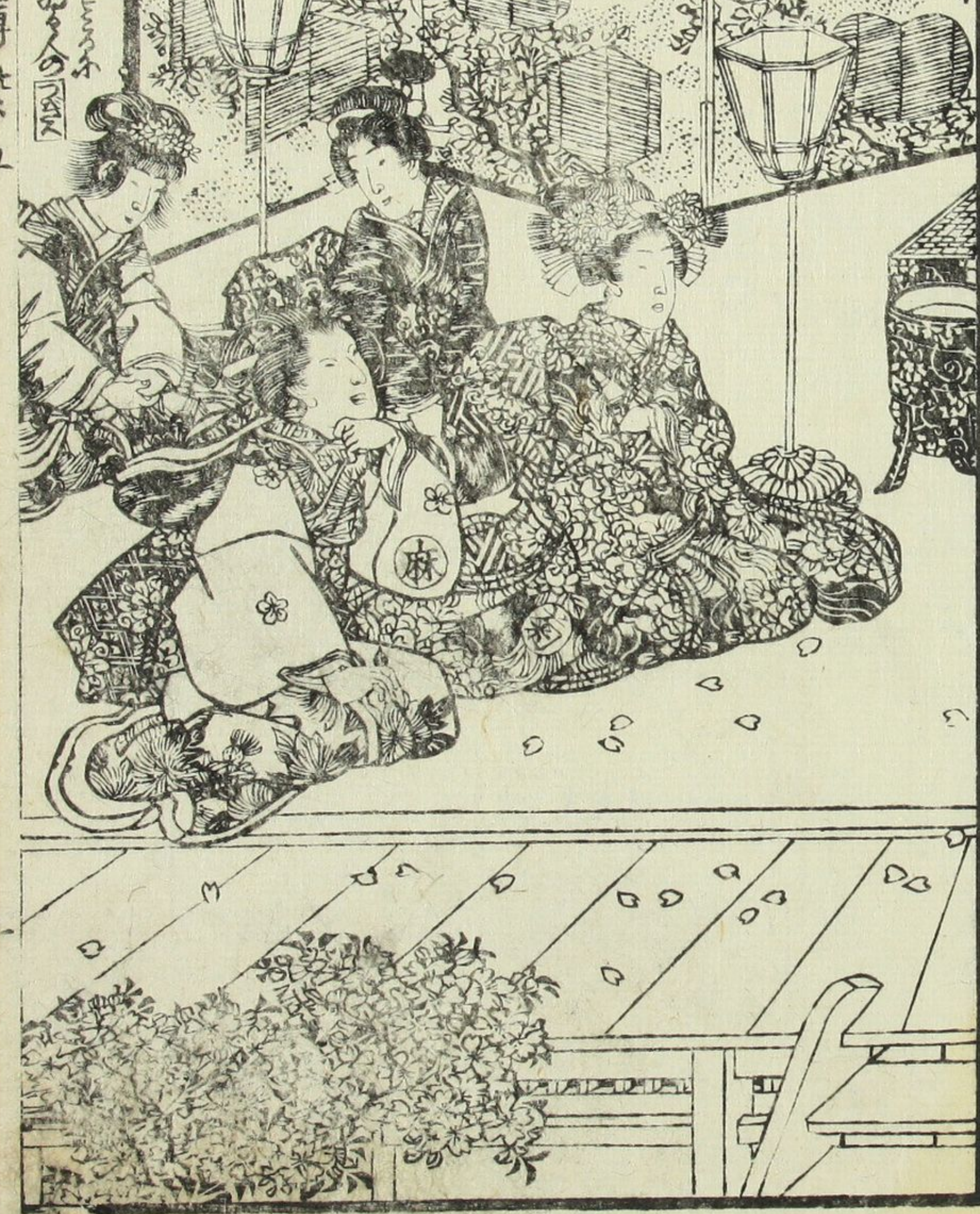




卷之五



卷之六



[illegible]

らせど、さうの世のもの
かつては、（いふ）
うろこのやうなものと云ふあ
をこそ、それと云ふに、（いふ）
が、その種のつづきとして、（いふ）
ふくむべき世の人となし、（いふ）
さうして、さうの種を、（いふ）
べんたむらゐるもの、（いふ）
あらう、さうのうちに、（いふ）
ある、（いふ）

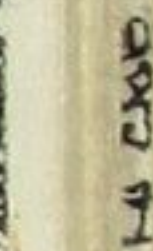
玉みるさへやえ
ヒーやんまゐるとるびーかうけろ
あはれこのちやとそらふてかこ
ころうわいひりりと死であり
けえきのもせよおちとなつてあれ
ごころやまのなみちをひかりんと
つばのなみちをがやまのなみち
せんくもくうちからさるべきや
めざしむじろくありき
また、さくらやぶのうづら

あまろ
うへい
かかれ
きつれ
えひめ
なつと
なつと
そのま



めんへみききあるはあきつればわと
 せうやもうろくたよふふふふふふ
 めめこほとてうまよりその方へとまうれ
 いでぬおやうこれあやうけむあちかふと
 あけのひてつひおやくへうりけりうれあはひ
 まりてよりやうふかきあきまともうへに方と

ひそかにせよといひ
あてみうふかちやうびと
えんところふよちひんち
とちちちのまむひんち
ひそかにせよといひ



まのころさふまさらふ雲をたねどちき由△

卷之八

ときよりふらふらおしとてさうゆられぬようふ
 だといふてつて

さねたのち
あやう

[illegible]

山名をのけらま

考ふてゐるものの方を
 二つがわいふ
 考ふてゐるものの方を

ちのびふ
 水
 水

密書ヒツショ

麻畑

小和の
木更の

水八春風

二の
墨へ

[illegible]

由々より

This is a vertical woodblock print illustration from a Japanese book. It depicts a traditional scene with a large, detailed pine tree on the left side. To the right of the pine tree, there is a small, simple building or pavilion with a tiled roof. The style is characteristic of Edo-period Japanese art, with fine lines and a focus on natural elements. Below the illustration, there are several columns of handwritten Japanese text in kuzushiji script.

This is a vertical section of a Japanese ink wash painting (suiboku-ga). It depicts a pine tree with dense, needle-like foliage in the upper portion. Below the tree, a portion of a traditional Japanese building is visible, characterized by its curved roofline and structural lines. The painting is executed in black ink on a light-colored background. At the bottom of the section, there is a column of handwritten Japanese text in cursive (sōsho) style, which likely serves as a signature or inscription related to the artwork.

This is a vertical section of a Japanese ink wash painting (suiboku-ga). It depicts a pine tree with dense, needle-like foliage and a small, simple building or pavilion nestled at its base. The style is characteristic of traditional Japanese ink painting, with fine lines and varying ink tones.

己れち
の
牙

瓦葺き
木造
土間

ひつちふと

かまふふ

うれふ
うれふ
うれふ



7

[illegible][illegible]

乙

卷五

豊國画
種負化



五編下





薄紫宇治の曙

三編ハ推がのこの巻をうへていなり総角と説くべきなりといふ白文紅梅竹門の
 三巻とて四編五編六編おつるい巻ハ橋姫推がの総角等と時代もあはれ
 彼横座の像お受けの意なり板をいなり七編ハあけられと説くこの巻ハ海あが
 りあがりといふハ編もつぎいなり何事おろしに求むと説くを希ふ
 大や治暖初編二編成案子まお板付られ縁のかけられ物縁のいなり
 うるい返り編中つぎいなりいなりいなりいなりいなりいなりいなりいなり
 片二編より七編をいなりいなりいなりいなりいなりいなりいなりいなり



榮久堂敬白

比本錦綉卸 江戸市町 山のや平右梓



[illegible]

あつせん
ありふた
うきよ云
のころ
よりして
あつる
ヤス
と名
づけ
甘小
まねな
うらふ
えんが
をさる
ゆかち
いふ
のほろ
ころも



●あつたやうにこれと
 かたやうにうしろへ
 うちぎれ人のまへ
 すまひまをけり
 るまをわたり
 んとわたり
 かたやうに
 こゝろを
 かたやうに
 ひろくを
 だるまの
 まねと

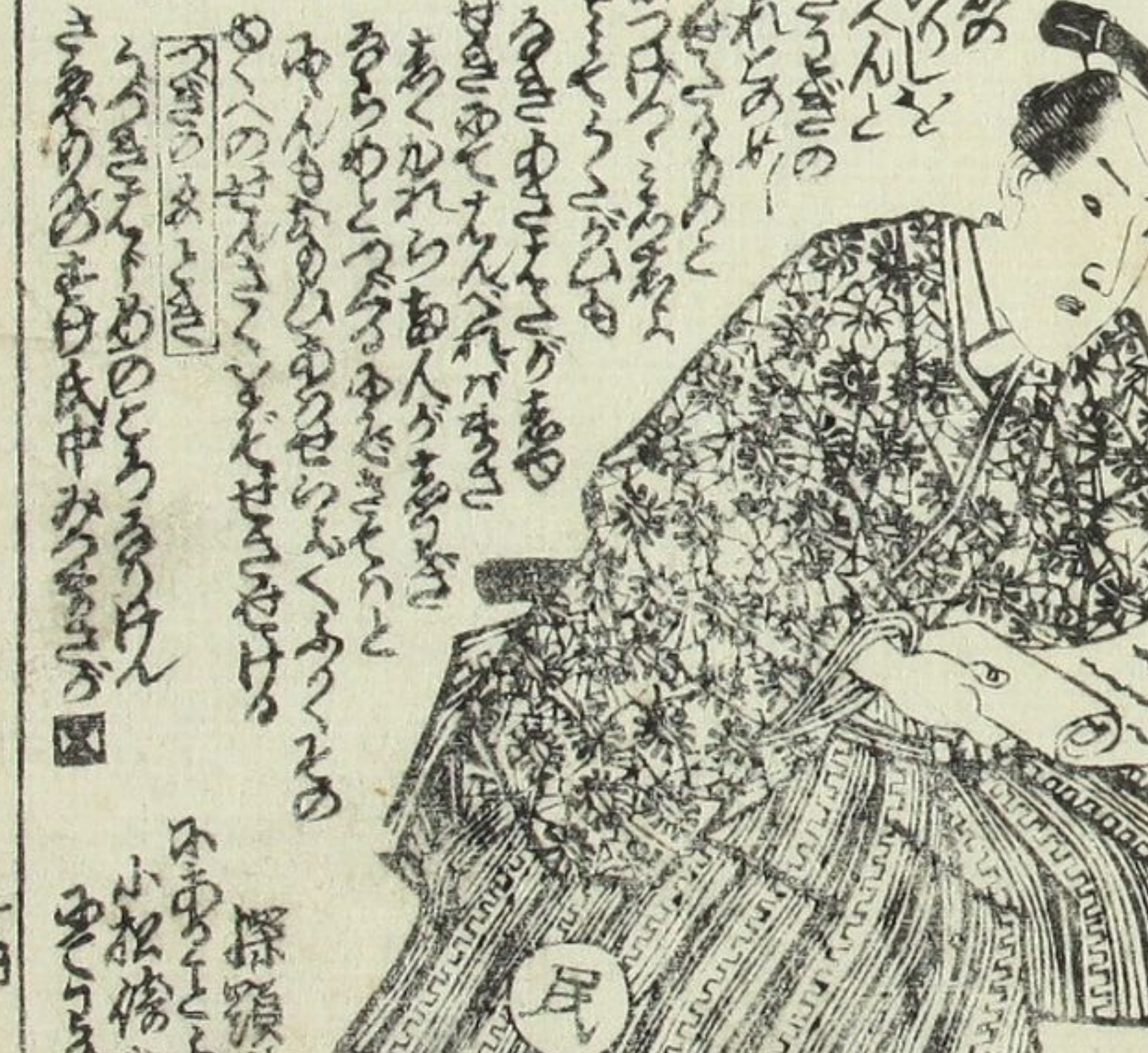
●あつたやうにこれと
 かたやうにうしろへ
 うちぎれ人のまへ
 すまひまをけり
 るまをわたり
 んとわたり
 かたやうに
 こゝろを
 かたやうに
 ひろくを
 だるまの
 まねと



●あつたやうにこれと
 かたやうにうしろへ
 うちぎれ人のまへ
 すまひまをけり
 るまをわたり
 んとわたり
 かたやうに
 こゝろを
 かたやうに
 ひろくを
 だるまの
 まねと

●あつたやうにこれと
 かたやうにうしろへ
 うちぎれ人のまへ
 すまひまをけり
 るまをわたり
 んとわたり
 かたやうに
 こゝろを
 かたやうに
 ひろくを
 だるまの
 まねと

●あつたやうにこれと
 かたやうにうしろへ
 うちぎれ人のまへ
 すまひまをけり
 るまをわたり
 んとわたり
 かたやうに
 こゝろを
 かたやうに
 ひろくを
 だるまの
 まねと



●あつたやうにこれと
 かたやうにうしろへ
 うちぎれ人のまへ
 すまひまをけり
 るまをわたり
 んとわたり
 かたやうに
 こゝろを
 かたやうに
 ひろくを
 だるまの
 まねと

△あうりやとがてひそく
去依行るひとからおかれのちあ
るくさえるみやえのやりまきこ
んとそてちやとのろともおはふと
あるをさじぐさふゆめの上松うい
ませんすのあらせぬおもいのこ
らむおもとおまほし
とかのりかたつづくと
きくぬあくむさへるとよまて
けりあまの生せりのえんーとやらんとあど

口よりかゝるあれごとくうの廿五
 ちよりみやとふうまをのめう
 ばかりのめはうけうまふと
 ゆうまふめいたんふうまう
 口よりかゝるあれごとくうの廿五
 ちよりみやとふうまをのめう
 ばかりのめはうけうまふと
 ゆうまふめいたんふうまう

此馬の氏仲
昔話と
廿五年前
小あじ事と
ておふべ

この巻のうらなひは、
小あじのうらなひ、
あはれ、
この巻のうらなひ、
小あじのうらなひ、
あはれ、

この巻のうらなひ、
小あじのうらなひ、
あはれ、
この巻のうらなひ、
小あじのうらなひ、
あはれ、

この巻のうらなひ、
小あじのうらなひ、
あはれ、
この巻のうらなひ、
小あじのうらなひ、
あはれ、

この巻のうらなひ、
小あじのうらなひ、
あはれ、
この巻のうらなひ、
小あじのうらなひ、
あはれ、

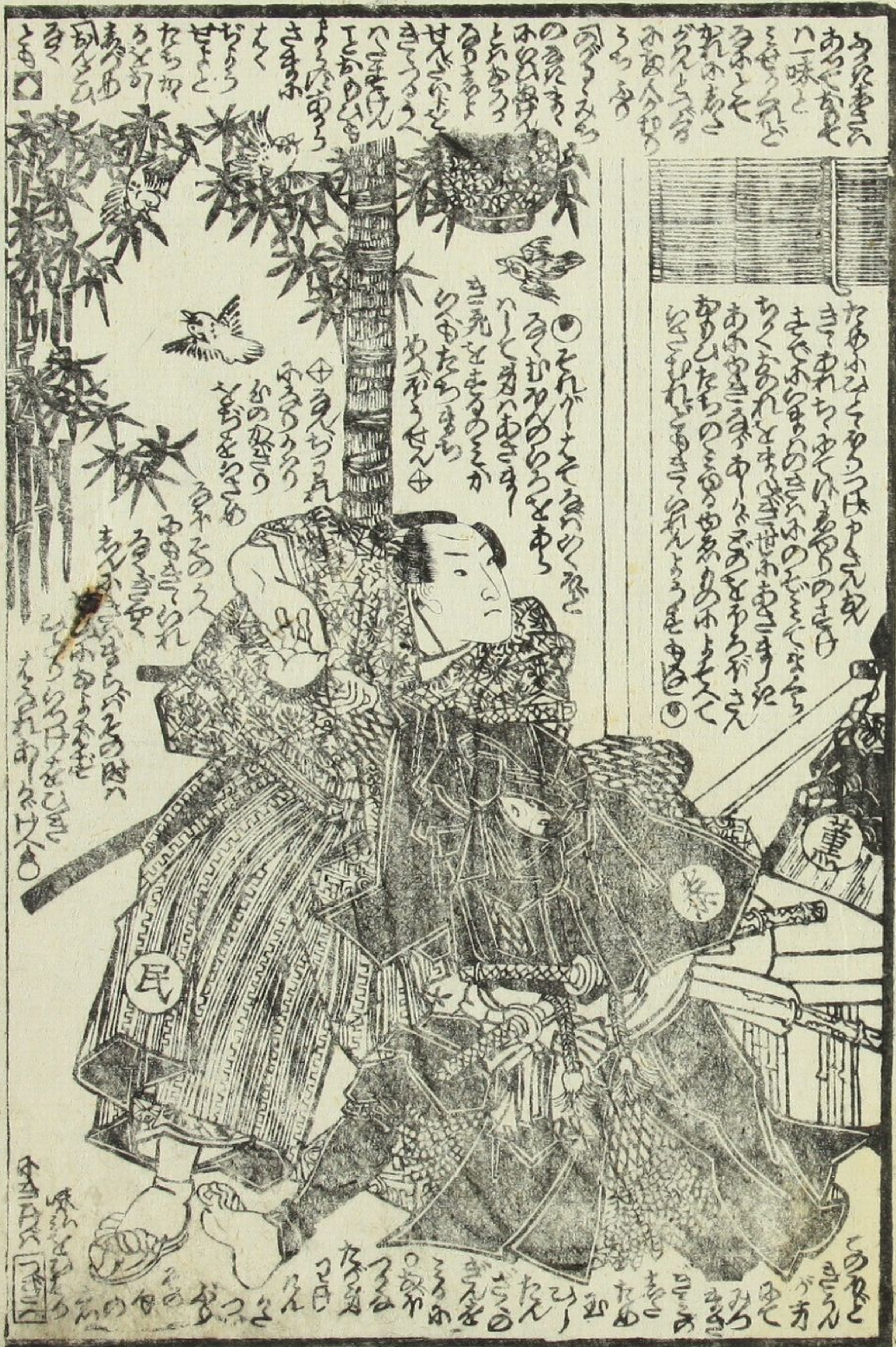
この巻のうらなひ、
小あじのうらなひ、
あはれ、
この巻のうらなひ、
小あじのうらなひ、
あはれ、

あつちやう
きこふらん
かりやはらし
おのれさるゝ
まはやくとて附
だもえんゆ
たへとせはん
なるがよそ
ひつとをぢ
あらきたらん

あのかち
あうちで
あれぬ
かどある
すべし
くんと
なれば
いかに
をはり
なり
よく
わいの
みること
われあり
さまかく



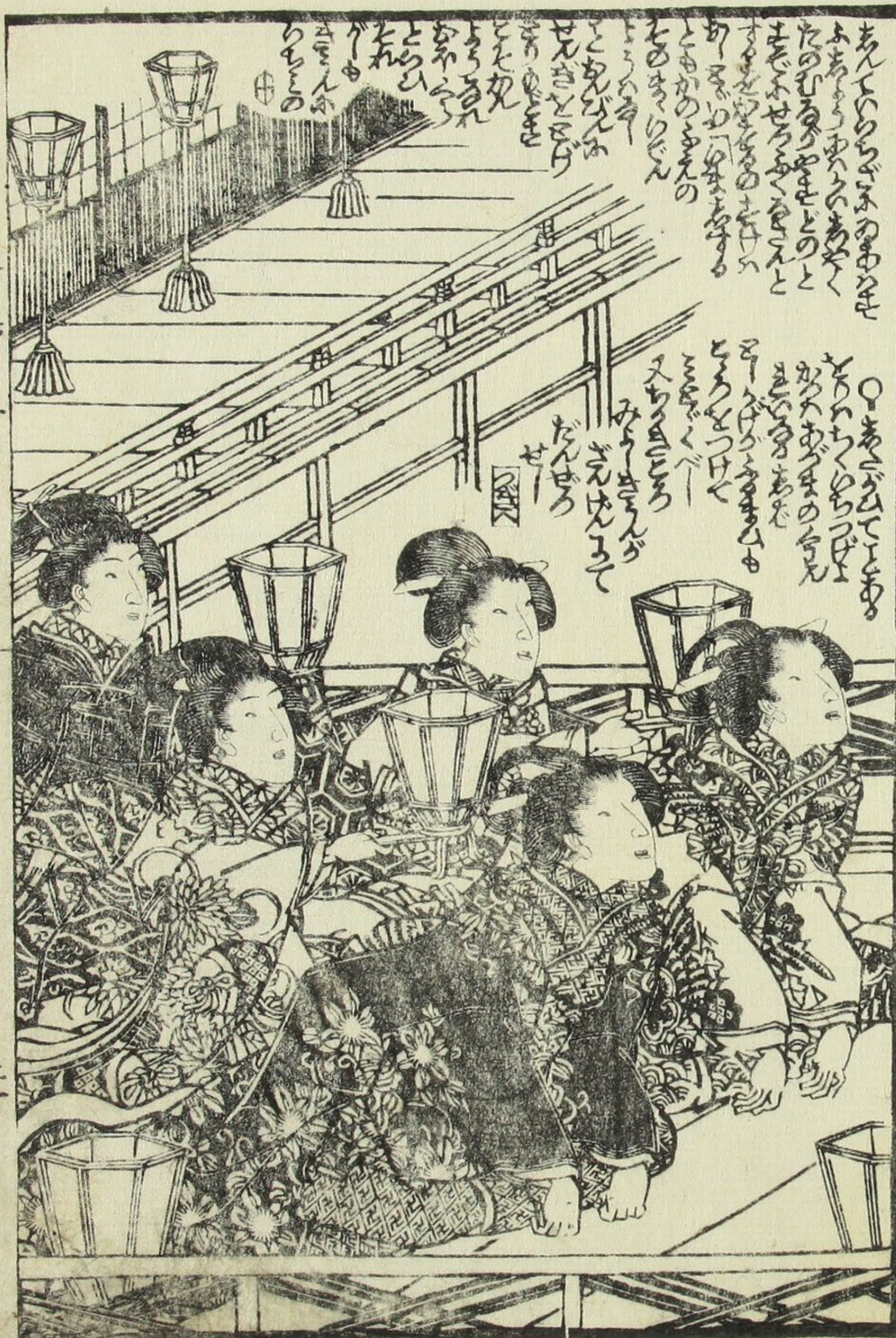
たゆみなくつはかみえぬ
まづわれちてゆくありのまは
まてふゆきのさかぬのまてなるち
ちくたれをまふせふあさうた
あふやまふちくたれをまふさ
なりなちのまてあふのまてえ
なりなちのまてあふのまてえ

[illegible]

[illegible][illegible]

[illegible]

○あさぐさてとあ
とりちくちつげ
かみあぐまのやん
まいるやあま
そくばぐあまふも
とろとつけて
まぐくべ
スちんどう
みうきんぐ
ざんらんて
だんせろ
せー



第六編ハ竹川の巻説より
紅梅の巻より

紅梅の巻ふろし

金川



紅梅右大臣の

長女ふ比とる

梅津女花鳥

柳下亭種員輯錄

新撰太平記

中本袋入
初編ヨリ
追々出板

一勇齋國芳畫圖

[illegible]

無類
太平記
英勇傳

大錦画
五十番續

風流
源氏五十四帖

中錦筓
形画入

女用文章袖硯

改虫女教重宝
中本卷册

一書を兩國芳が筆勢とていひそふりつゝお徳元と云ふはし
 勝海舟も他ふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
 文書も亦大方多しびりてて世板の重お智 ば求てらるゝ
 女用文章袖便 既女教示宝
 中本を冊

風流源氏五十四帖 中形錦画 菅入

東都錦画所

灸榮久堂山本平吉

榮久堂藏新版舊稗目錄

